

日本メコン地域経済委員会 訪タイ・ラオス国境経済ミッション

概要報告

日本メコン地域経済委員会
2024年11月

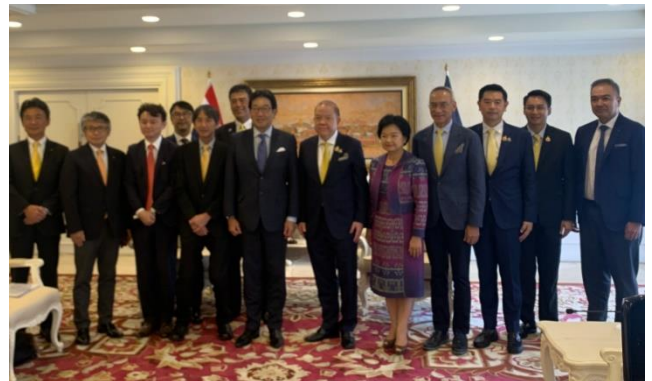
1. 日程:2024年10月28日(月)～10月30日(水)
2. 訪問先:タイ(バンコク、ラヨン、チョンブリ、ウドンタニ)、ラオス(ビエンチャン)
3. 参加者:石井敬太・日本メコン地域経済委員会委員長(伊藤忠商事株式会社 代表取締役 社長 COO)
はじめ13名

4. 概要

日本メコン地域経済委員会では、タイ・ラオス両国との一層の経済連携促進に向け、経済ミッションを派遣。ラオス訪問は2019年2月以来約5年半ぶり、タイは委員会としては初めての訪問となった。

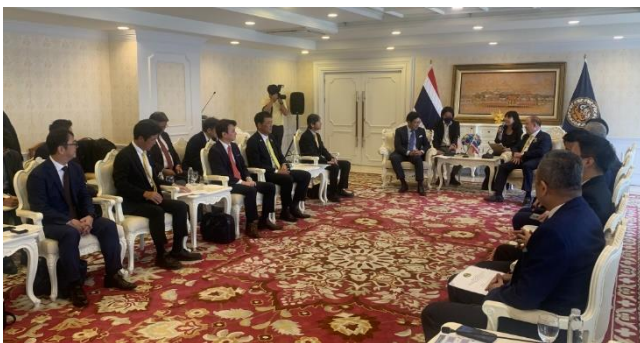
主な行事として、タイ・バンコクでは、本年9月に就任したピチャイ・ナリプタパン商務大臣への表敬訪問をはじめ、大鷹正人大使、現地経済団体であるタイ商工会議所、および盤谷日本人商工会議所との懇談機会を設け、現地事情を直接伺ったほか、ラヨンでタイ政府が開発する東部経済回廊イノベーション特区(EECi)を視察、その後、チョンブリで日系企業が多く進出している工業団地、およびウドンタニに進出する日系企業を訪問した。

また、ラオスでは、本年7月にビエンチャンーバンコク間(654キロ)で運行が開始された国際旅客鉄道でビエンチャンからタイ・ウドンタニ(約70キロ)まで乗車し、陸路で国境を越えた。



5. 主な活動の概要

① ピチャイ・ナリプタパン商務大臣への表敬訪問(10/28 バンコク)



表敬訪問の様子

またタイとの二国間貿易額では、最近、中国が1位となったが、是非、日本には1位に返り咲いて欲しいと述べた。

石井委員長からは、タイには日系企業約6,000社が進出しており、日本の経済界にとりタイは最も重要な国の一つであること、また、これまで日本からタイへの投資は製造業が中心であったが、今後はタイのニーズに合わせてIT、ソフトウェア、サービス分野等への投資も増やしていくべきと考えたと説明した。脱炭素分野ではAZEC(アジア・ゼロエミッション共同体)を通じて日・タイ間での脱炭素協力も推進したいと述べた。

続いて、ミッション参加各社のタイにおける事業展開について説明がなされ、大臣からも各社の説明に対し、コメントがなされた。

訪問初日、ピチャイ・ナリプタパン商務大臣への表敬訪問を行った。日本側は、全団員が表敬に参加し、商務省側は、大臣のほか、スナンタ・カンワングンギ国際貿易振興局長等の省幹部が出席した。

冒頭、ピチャイ・ナリプタパン大臣からの歓迎の言葉に続き、商務省が日本からの投資をファシリテーターとして支援すること、特にプリント基板(PCB)などのハイテク分野、および食品安全保障の観点から食料分野への投資を歓迎するとの発言あり。ま



石井委員長(左)とピチャイ・ナリプタパン商務大臣

② 懇談会

盤谷日本人商工会議所、および大鷹正人駐タイ大使との懇談機会を通じ、現地情勢やビジネス事情、文化・風習等の現地情報を伺った。

また、現地経済団体のタイ商工会議所が運営するタイ商工会議所大学において、同所幹部との懇談会を開催した。サナン会頭、カリン名誉会頭も参加。サナン会頭は、持続可能な農業、デジタルトランスフォーメーション、再生可能エネルギーなど、グリーン成長と低炭素経済を目指すタイの国家アジェンダと密接に連携する分野での日本との協業プロジェクトには、大きな可能性があると考えていると述べた。また、観光や人材育成の分野での協力に期待していると述べた。



盤谷日本人商工会議所との懇談会



タイ商工会議所との懇談会

③ 産業視察

- ◆ 東部経済回廊イノベーション特区（10/29 タイ・ラヨン）
タイ政府がタイにおける一大イノベーション拠点として開発する東部経済回廊イノベーション特区(EECi)を視察。同特区には、人工知能・ロボット工学等の自動化研究開発拠点と循環型・グリーン・バイオテクノロジー等の開発拠点のインフラ設備がある。
- ◆ アマタシティ・チョンブリ工業団地（10/29 タイ・チョンブリ）
タイにおける工業団地最大手のアマタコーポレーションが手掛けるチョンブリ工業団地(4,330ha)を視察。同工業団地には約 800 社が入居し、その約 59%が日系企業。
- ◆ Kaset Phol Sugar 工場（10/30 タイ・ウドンタニ）
「スプーン印」のブランドで有名な砂糖を製造する製糖工場を視察。同工場は、三井物産と三井製糖の合弁会社で、サトウキビ圧搾から原料糖製造、白糖精製までの一貫設備を有する。
- ◆ Sumirubber Thai Eastern 工場(10/30 タイ・ウドンタニ)
住友ゴムが、世界で唯一、自社で天然ゴムを製造する工場を視察。同工場では、周辺の農家からゴム樹液を集め、洗浄、粉碎を繰り返し、乾燥仕上げのうえ、ブロック天然ゴムを生産し、自社のタイヤ工場に原料として納入している。



東部経済回廊イノベーション特区(EECi)



アマタシティ・チョンブリ工業団地



Kaset Phol Sugar 工場



Sumirubber Thai Eastern 工場



ビエンチャン（カムサワート）駅

以上